

12月「家族月間」について

2710 地区 PDG 諏訪昭登（広島西）

12月はロータリーの特別月間としての「家族月間」です。ロータリーは荒廃した社会の中で、互いに胸襟を開いて語り合える友情を求めて出発して、直後には親睦と奉仕を不可欠な両輪として様々な試行錯誤を続けて100年余の輝かしい歴史を築いております。最も重要な綱領（目的）の主文に、「有益なる事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し育成し…」とあるように、職業奉仕をロータリーの主目的としています。さらに第3項において、「ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること」とありますが、個人生活は家庭生活とみなせるので、まさに家族こそが奉仕の最初の出発点たることが明確に示されています。ロータリーの家族とは個人的家族のみならず、ロータリーに関連するあらゆるグループ、個人などを含めて、共に奉仕を考え、そして実践しようとする大きな絆のことです。さらにその意味合いのご理解と実践の推進をお願いするために、その概念の沿革を要約紹介してみましよう。

- ・1995～96年度ハーバート・ブラウン会長

11月RI理事会で2月第3週（のちに第2週）を家族と地域社会週間（のちに家族週間）と指定。「家族の平和が地域の平和に、それが国家の平和につながるから、健全な家庭を再認識して下さい。」

- ・1997～98年度グレン・キンロス会長

「私たちは世界理解と平和を究極の目的として、その進むべき未来と運命の道筋を描いて来ました。これこそ全世界のロータリアンをロータリー家族としてつなぐ唯一の理念です。」

- ・2002～03年度ビチャイ・ラタクル会長

「家族は地域社会を築く一つの積み木である。家族の絆を強化するためにはロータリアンが尽力すべし。家族の絆が強まれば地域社会も強化されます。」

- ・2003～04年度ジョナサン・マジャベ会長

ロータリー家族をRI会長強調事項に挙げ、12月を「家族月間」と指定。（この時点で2月の家族週間は廃止。）ロータリアン家族、すなわち配偶者、お子様、お孫さん、物故会員の配偶者の方々を主対象としながら、ロータリーにかかわるすべての人々を対象とした。

- ・2004～05年度グレン・エステス会長

前年度RI会長強調事項を引き継ぎ、財団学友、GSE、IAC、RAC、青少年交換、RYLA、RCCなどを含む具体的対象を示した。「ロータリー家族への心遣いの奨励」を強調。

・以後 2007～08 年度ウィルフリッド・ウィルキンソン会長まで、「ロータリー家族」は会長

強調事項の 1 つとして継続。

・ 2008～2009 年度 D.K.リー会長

強調事項に入れてないが、すでに常識として「全てのロータリアンと関連する人々との絆を強化して、ロータリーの目標と理念の推進に共に協力しよう。」

・ 2010～2011 年度カルヤン・バネルジー会長

強調事項の第一に「家族」を挙げ「ロータリーの目指す全てのことの出発点は家族、特に中心は母と子にあります。」と原点的強調。

このような経過で「家族」は強調事項に入る入らないに関わらず、通年的にロータリー永遠のテーマの一つとされております。120 万人を超えるロータリアンと関連する人々との絆を強化することで、ロータリーの理念と目標の推進が大きく促進されるというのが「家族」「ロータリー家族」の主旨と言えるでしょう。

かつて 1982 ～83 年度日本人 2 人目の向笠広次 RI 会長は、RI テーマ「人類はひとつ世界中に友情の橋をかけよう」と掲げました。そしてその補足として「人類はひとつの家族 — すべての人間、すべての国民を含むひとつの大きな家族です。全家族の平和と幸福がなければ、個人の平和と幸福はあり得ません」と語りました。これこそ「ロータリー家族」の概念の起源であると考えて引用しておきます。

家族月間では「家族」について特に思いをめぐらせていただき、共に暖かい愛を育み、奉仕への情熱を高めて下さるようお願いいたします。

2013. 12. 1